



光塩女子学院の設立母体であるメルセス会の日本地区では、この冬休みを利用して地区総会が開かれました。総会に出席するため、12月にはメルセス会総長 Sr.弘田と、総長顧問 Sr.メリアンが来日されました。Sr.メリアンは、アメリカ出身で、長くミクロネシアで宣教に従事しておられました。現在は、総長顧問としてローマでメルセス会のために働いています。2学期の終業式には Sr.メリアンを光塩女子学院にお招きし、終業式で中等科・高等科の生徒のため、グローバルな視点から、「日本の若者へのメッセージ」と題して、英語でお話して頂きました。以下に、Sr.メリアンのお話の訳文の一部を抜粋します。

あなたがたが世界で「光と塩」であることを望みます。

「塩」は、食べ物に味をつけ、美味しくしてくれます。私にとって、「塩である」とは、「変化をもたらず」ということです。変化をもたらず選択をすること、それは、自分自身を、自分が本当に信じる何かに捧げることを意味します。それは他者を助ける何か、すべての人にとってより良い世界を築く何か、自分自身を無条件に差し出す価値のある何かに、自分自身を捧げることです。皆さんにとってそれが何であるかは、私にはわかりません。皆さんが自分で探して見つけるものなのです。その何かによって、皆さんが生きる価値を見出すようになり、そして最終的には皆さん自身が幸せを得ることができるでしょう。

「光」であるとは、自分の才能や価値、能力を輝かせることです。自分に与えられたものを他者と分かち合い、他者のための人間である、ということです。自分の殻に閉じこもったり、自分の欲や望みだけを考えたりしてはいけません。もっと広い視野で他者とともに生き、他者が必要としていることに敏感であり、他者とつながっていることを大切に生きて下さい。光塩で過ごす歳月の間に、皆さんは自分の才能や、学問的な適性、身体的能力、芸術的才能に気づき、そして自らが「他者のために生きる人」であることを学んで下さると信じています。私たちの才能や能力は、自分だけのために与えられたものではありません。他者のためにも与えられたものなのです。自分だけのバスケの下に隠してしまうのではなく、他者のために自分の才能や能力を使うことで、それらを一層輝かせることができる人生を歩まれるように祈っています。

光塩女子学院では、地球上の「もう一人の友」の存在を心にとめて、他者のために喜んで生きる人間としての成長を目指しています。

今年も素敵な一年になりますように……。